

### 講演 私を育てた青森の自然

## じよっぱり、土俵で開花

18歳で青森県を離れ、東京で暮らしているが、年を重ねるほど、青森の素晴らしさを強く感じる。風土、自然、食べ物、人々の気風。いろんなものに支えられ、今の私がある。私の生まれは鮎ヶ沢町。日本海の幸はもろろん、実家の裏の川でとれるサケ、シロウオ、近くの山のアケビや山菜などを食べた。子どものころは、私もハンバーグ、スパゲティ、コロッケを食べた。でも、食卓は毎日、煮魚や焼き魚。みそ汁は煮干しを砕いた粉でだ

しを取り、飲み干すと底に味が残っている。そのかすも食べない。魚まみれの生活は嫌だ。まらなかつたが、魚の骨などを食べて育ったせいかな。大相撲の現役時代、大けがはしても骨折は一度もない。奇跡的といえる。今思うと、共働きで私たちが学校に入れてくれた、手作りの食事を見てくれた親に感謝している。中学の時、相撲を指導してくださった先生にも感謝している。私は小学校で一番強かったが、中学では仲間がど

大相撲解説者、スポーツキャスター 舞の海 秀平さん



とくれない。放課後、帰るとする私を校門で待ち構え、強引に稽古場に連れ戻した。私も根負けして、退部を断念した。

先生の指導は厳しかったが、週末には私たち部員に出前のラーメンやカツ丼をこちそうしてくれ、やる気を引きだした。

先生は、勝てなかつた。2年生の時、意欲をなくして、先生に「もうやめよ」と伝え、ところが先生がやめさせ

とす。そして私たちは3年の対戦でも、両手で肩を突かされた。一発で土俵下に転がされてしまったので、立ち会いで下に回り込んだ。相手の片足を手で取り、もう一本の足を押すという「三所攻め」で勝つことができた。

体が大きい人にも、弱点はある。体の小さい私が、大きな相手に勝つたのは、あきらめない「じよっぱり」の気風があったから。単なる意地っ張りという意味ではなく、今に見ておくれ。このままでは終われない。この内には秘めた闘志。これは青森で育った18年間で培われた。ふるさとには本当に感謝している。

## 青森で社会貢献フォーラム

主催 全日本社会貢献団体機構 東奥日報社 全国地方新聞社連合会

# 安らぎ求めつなぐ心

人間社会に豊かな恵みをもたらす大自然は、一方で地震や津波、豪雪など大災害を引き起こす脅威にもなる。東奥日報社は「自然と生きる」自然を活動かすをテーマに、社会貢献フォーラム(全日本社会

顔が見える関係づくりだ。青森県も、成長期の発想では「遅れた地域」だったかもしれないが、成長期では発想次第でトップランナーに変わるかもしれない。

関係構築を築き互いに「今」をどうしているかなと思いを寄せたり、震災から赤十字社に義援金を届けていた。復旧・復興は、まだ当分の期間を要する。息の長い活動を、今後被災地に寄付金を贈りたい。今後は大きな地震や津波が懸念される。パチンコ・パチスロ店の建物や駐車場を、一次避難所として提供できるように、一部の自治体と協定を結んだ。発電機や食糧も配備している。

## 自然と生きる・自然を活かす・みんなてつくる地域のかく

## 社会の成熟度に着目 鳥越

## 長期覚悟で復興支援 大西

## 夢が「次の夢」を生む 近藤

村松 現代社会では、人と、社会には「成長期」としての温かいつながりが求められている。自然を生きかしながら、どんな社会員か活動すれば良いか。鳥越 歴史人口学でみる

や学問が豊かになった。その後も、明治から平成に入る辺りまでは成長期で、より大きなもの、より強いの、より合理的なもの、心のあるかが求められる。現代、大切なのは、相手の

く自分が金持ちになれない」というような考えも、成長期にはありがた。片や、今は成熟期。科学技術の発達を否定するわけでもないが、「より幸せになるためには、経済的な価値観だけではダメだ」という考え方に変わってきた。

東日本大震災が発生した時、われわれは一人の人間として、また、遊技業の業界として、一刻も早く何かをしなければ、との思いで

## 目の輝き、幸せ映す 舞の海 努力が地域の魅力に 村松

舞の海 テレビ番組のリーダーとして、若手県や宮城県などの被災地を訪れた。避難所によっては、家族と一緒に周りを仕切る柵を設置しているが、柵がない避難所の方が、話が弾み、活気があるように思う。何が幸せかを考えると、14年前にプーターンで、子どもたちに相撲を教えた時のことを思い出す。ヒマラヤのふもとで標高3000メートル、砂も土もない。岩を砕いて砂にし、みんな

で地面を踏んで平らにして土俵を作った。大変な作業だが、プーターンの人たちは歌いながら実に楽しそうに作業をする。高地を歩き回るので、みな足腰が強い。相撲を組み合っても、なかなか転ばない。電気がなく、ラジオもない。だからといって「不便か、不愉快か」といえば、それは違う。みんな目を輝かせて暮らしており、勤勉で、学校教育も熱心だった。

近藤 一生懸命な人の目の輝き、その地域の



早稲田大学教授 鳥越 皓之さん



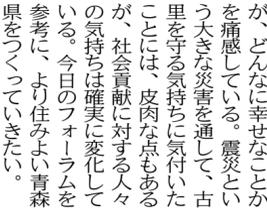
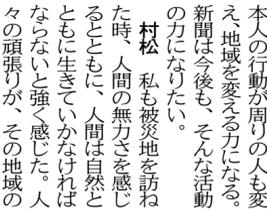
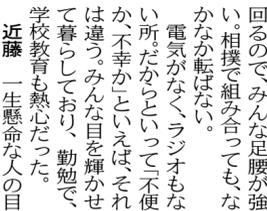
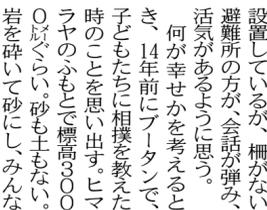
東奥日報社報道部次長 近藤 弘樹



コーディネーター アナウンサー エッセイスト 村松 真貴子さん



県遊技業協同組合理事長 大西 康弘さん



企画・制作 東奥日報社営業局

## 全日本社会貢献団体機構は 未来に向けて平和で住みよい 社会づくりをめざしています。

私たちは、社会に役立ち必要とされる研究や事業、活動をサポート・応援しています。

助成事業

今日の社会に最も必要とされる研究や活動に対する助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、子どもの健全育成、命を大切にする研究や活動、学術・文化の振興に関する活動に対し、助成を行っています。

◆平成23年度助成事業(実績の一例)

- 「東京おもちゃ美術館 日本の木の文化でつくる「赤ちゃん」育「ひろば」開設プロジェクト」事業 一認定NPO法人日本グッド・トイ委員会
- 「いのちの大切さ」を伝える講座・講演の実践及び啓蒙・普及活動」事業 一は〜とふるすべ〜す はくくみー
- 「障がい者アートの商品開発による障がい者の生きがい・就労等の促進」事業 一財団法人日本チャリティ協会

顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成17年から実施しております。

- 第5回 社会貢献大賞 「夢まるひまわり」を中心とした総合的社会貢献」事業 千葉遊技業協同組合
- 第6回 社会貢献大賞 「ユニバーサル社会実現に向けた社会貢献」事業 兵庫県遊技業協同組合
- 第7回 社会貢献大賞 「石巻地区ボランティア隊派遣」事業 東京都遊技業協同組合

全日本社会貢献団体機構は、全国のパチンコ・パチスロホール組合の連合会組織である全日本遊技事業協同組合連合会(全日遊連)を母体として2005年12月に設立された任意団体で、学識経験者、文化人、政財界関係者が参加し、平和で住みよい社会づくりに貢献する事業への助成や社会貢献活動の顕彰を主な活動としています。

AJOSC

全日本社会貢献団体機構 TEL.03-5227-1047 http://www.ajosc.org